

ズーム・アップ・カメラ・アイズ

スマトラ沖地震によるスリランカ国 ゴール港の津波被害

Tsunami disaster in Galle Port in Sri Lanka caused by Major Earthquake off the Coast of Sumatra

(スリランカ ゴール)

株式会社日本港湾コンサルタント
海外業務本部 コロンボ事務所長

市菌敏郎
ICHIZONO Toshiro



2004年12月26日にスマトラ島西方沖の海底を震源として発生したスマトラ沖地震(マグニチュード9.0、震源の深さ10km)はインド洋全体にわたる巨大津波を引き起こし、インドネシア、タイ、インド、スリランカ等の各国に甚大な被害を与えた。そして、スリランカ国ゴールにおいても、4千名を超える死者を出すに至った。

本稿は、筆者が赴任先であるコロンボから2004年12月30日にゴール港へ赴き、撮影した写真をもとにその被災状況を報告するものである。

なお、通常であれば、コロンボからゴール港への移動は車で3時間30分位の行程であるが、海岸線の津波被害が大きく道路が通行不可であったため、山岳部の道路を利用することとなり約5時間を要した。

1—ゴール港の概要

スリランカは、インド亜大陸の東南のインド洋に浮かぶ島である(面積は北海道の約0.8倍)。中央から北部にかけては草原が広がり、南部は山岳地で海岸線に沿って平野を有し、しずくのような、又はマンゴのような島の形と豊かな自然に恵まれた楽園として「インド洋の真珠」とも呼ばれ、かつてはセイロンという国名であった。

ゴール港はスリランカ最大の港湾であるコロンボ港から120km南に位置し、スリランカの南西海岸にあるゴール湾に位置している。また、オランダによる統治時代の貿易代表港として開港され、スリランカの港の中で最も長い歴史を有し、現在ではコロンボ港、トリンコマリ港とともにスリランカにおける海上輸送の重要な基地となっている。

2—ゴール港の被災状況

スマトラ沖地震による津波の高さは、インドネシアのバンドアチエでは20~30m、タイやスリランカでも10m以上であったと報道されている。

津波は発生後約2時間でゴール港へ到達し、実際のゴール港周辺の津波浸水高さは7m程度であった。また、SLPA (Sri Lanka Ports Authority) の現地職員の証言によると、津波襲来の前に、港の中だけでなく防波堤(水深約10m)の外側まで海水が引いたとのことであった。

以下にゴール港の被災状況を示す。

- 係留されていた200トン(DWT)級のしゅんせつ船が岸壁上へ打ち上げられ鎮座している(写真1)。
- 手前の岸壁上では打ち上げられたと思われる木材等が見られる(写真2)。
- しゅんせつ船が打ち上げられた岸壁背後が大きく被災し、コンテナ等が水没している(写真3)。
- 転覆した漁船が浮かんでいる。また、岸壁上に漁船



■写真1—岸壁上へ打ち上げられた200トン(DWT)級のしゅんせつ船(正面)
■写真2—手前の岸壁上へ打ち上げられた木材

■写真3—しゅんせつ船が打ち上げられた岸壁の背後

が二つに割れ打ち上げられている(写真4)。
● 2隻のサプライボートが並んだ状態で約50m陸側まで打ち上げられている(写真5)。
このように、津波が構造物や付帯施設等に甚大な被害を与えていることがわかる。ただし、南北の石積み防波堤では被災は見られなかった(写真6)。

3—おわりに

今回の災害により「TSUNAMI」という言葉は、スリランカばかりでなく、世界中の人々に知られる言葉となった。この津波によって社会資本整備が必ずしも進んでいない地域において構造物や付帯施設等が被災することは、やむをえない面がある。しかしながら、地震発生直後に津波に襲われたインドネシア近辺とは異なり、津波到達までの時間が長かったインド、スリランカの人的な被害は防ぐことができたはずである。例えば、日本のような津波予報と情報伝達のシステムを持っていれば多くの人が助かったと思われる。それに加え、津波に関する正しい知識のない人々に「今から2時間後に10mの津波が来るので避難するように」と勧告しても、それを信じる人がいたかどうかといった問題もある。

今回の被害は、そういった状況に対する教訓とも言えるが、それにしても、あまりにも多くの人命が失われた。今回のような津波は、数百年あるいは数千年に一度しか起こらないものなのかもしれない。しかしながら、日本には「天災は忘れた頃にやってくる」という諺がある。忘れないように次の世代へ伝え続けていくことが、今後に残された、重要な課題であるように思われる。



■写真5—陸側に約50m打ち上げられた2隻のサプライボート



■図1—震源と津波の到達時間

■図2—ゴール港の平面図



■写真4—転覆した漁船と港内タッグボート(津波襲来時は出船を案内して、港外に出ていて難を逃れた)
■写真6—津波による被害がなかった石積み防波堤(南側)